

平成28年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

東永谷地域ケアプラザ

2 事業計画

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのようにおこなったのか、具体的に記載してください。

地域の現状と課題について

『港南ひまわりプラン』地区別計画の推進支援をおこないました。

※担当地区は大久保最戸連合、永谷連合、永野連合

1 大久保最戸地区

上大岡駅から丘にかけての買い物や交通が便利な生活しやすい地域ということもあり、高層マンションの建築等による若者の単身世帯の増加がみられます。一方で高齢者の単身世帯も増加し、また、全体では町内会未加入者の増加も見られます。

地区別計画「ハートのあるまちづくり」の推進1年目として協議や交流の機会づくりが定着しつつあるうえに、住民支えあいマップによる繋がりや、福祉ネットワーク「SOS」による支え合いの仕組みづくりが進んでいます。

2 永谷地区

永谷地区内の一部の自治会では、高齢化率が29%（港南区25%）と高い場所もありますが、マンションも多くあるため、全体では約23%の高齢化率です。地域活動が盛んで、地区社協と連合との繋がりもあり、協力しながら、地域づくりに前向きな地域です。

たすけあい広場の拠点を中心に、自治会町内会単位や方面別の助けあい活動の仕組みが定着、また拡充されつつあります。

3 永野地区

永野地区は港南区で一番大きな連合です。夏祭りや運動会など地区単位での取り組みも活発ですが、一か所の拠点（会場）での取り組みでは参加できる住民が限定的になってしまうなどの課題があり、また多くのケアプラザが複雑に担当している状況もあります。

地区別計画「くじら計画～くらしをじぶんたちでらくにする～」では、自治会町内会の特徴や課題を踏まえたそれぞれのコミットメントを踏まえた取組をおこない、年2回の全体会議において地区全体での共有を図っています。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

地区センターと協働し快適に利用していただけるよう設備の定期点検や破損個所の小破修繕を図り、事故の防止に努めました。

- 1 横浜市社会福祉協議会の運営する地域ケアプラザとして、活動理念である「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作くり出す」を基本に運営しました。
- 2 世代を問わず（子ども、団塊の世代、高齢者等）また、障がいの有無にかかわらず、地域の特性を活かし、地域の方々が主役になるよう事業を実施し、地域福祉の推進に努めました。
- 3 併設の地区センターと定例の会議をおこない、建物・設備等の劣化状況や利用者からの要望等の共有を図り、具体的改善策の協議・実践をおこないました。
- 4 高齢者のみではなく、障がい児・者、子育て関係等様々な利用が想定されるため、施設内の通路をはじめ各部屋、トイレ、洗面所等、誰もが使いやすいよう整理整頓を心がけました。また施設への経路、施設内案内図、施設の機能やサービス内容を伝えるため、見やすく、わかりやすい表示や言葉遣いに努めました。
- 5 委託契約に基づく施設管理、清掃業務が正常に遂行されているか自主点検しました。
- 6 利用者から話しかけていただきやすい関係（環境）づくりを行うとともに、施設内にご意見箱（2個）を設置し、常に利用者の声を施設運営に反映出来るよう取り組みました。

イ 効率的な運営への取組について

指定管理者として、公的な施設である地域ケアプラザの役割を認識し、限られた予算内で適正な運営を行うため、経費の削減、資源の有効活用に心がけ、光熱水費の削減に努めました。

- 1 予算管理に基づく効率的な経営を実施しました。
- 2 不要箇所（時間帯）の適宜消灯や賞味期限間近の備蓄物資の有効活用、デイサービス入浴後の残り湯による植栽への水やりなど、経費節減や資源の再利用に取り組みました。
- 3 物品のリサイクル、ごみを出さない工夫等を職員全員で意識を持って実施しました。併設の地区センターと協力して効率的な運営に取り組めました。

ウ 苦情受付体制について

利用者個人の尊厳を尊重し、利用者の権利を擁護する仕組みとして苦情解決を位置づけ、サービスや事業の質の向上に向けて、取り組みました。

- 1 利用しているサービスに対し、意見・要望を申しやすくし、その申出をきちんと受け止める事を職員全員の姿勢とし、職員会議等で共有しました。
- 2 職員一人ひとりが「苦情解決」に積極的に取り組む事が出来るよう法人のマニュアルを用い適切に対処しました。
- 3 苦情受付担当者及び実務責任者を置き、館内にわかりやすく掲示しました。
- 4 法人にて苦情解決調整委員会を開催し、苦情の報告及び評価を実施しました。
- 5 法人内の他施設・他部署と苦情並びにその対応を共有することにより、一施設の問題でなく組織全体のものとして受け止め、サービスの向上に努め苦情の発生を未然に防ぐ取組を行いました。
- 6 ケアプラザの利用登録団体を対象とした利用者懇談会で、苦情受付窓口、対応について説明をしました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

緊急時の体制を確立し、公の施設としての災害時の対応や防災・防犯の備えを行いました。

- 1 緊急対応マニュアルを見直しました。
- 2 消防署の立ち合いのもと避難誘導訓練を年2回実施し、併せて施設管理者対象の研修をおこないました。
- 3 警察、消防、地域との交流を密にして、放火や破壊行為等に対する協力体制を構築しました。
- 4 地域の行事等にも積極的に参加し、自治会、周辺住宅、地域防災（医療）拠点等関係機関と日頃から顔の見える関係をつくり、有事に備えました。
- 5 必要時に対応できるよう、AEDの日常点検を行いました。
- 6 職員研修において、災害時の特別避難場所としての役割をテーマとし理解促進を図るとともに、災害時に対応できるよう区役所等と連携しながら体制整備を推進しました。

オ 事故防止への取組について

法人が運営する施設の事故報告を集計分析し、法人内の館長所長会で報告を行い共有しました。その結果を受けて施設での事故分析、再発防止に向けた検討・対応を行い、事故防止に役立てました。

- 1 事故や感染症の発生、職員の労災、火災発生等がゼロである事を目指し、ケアプラザ全体で、「リスクマネジメント」を行う仕組みをつくり、実施しました。
- 2 事故対応マニュアルをはじめとする、各種マニュアルの見直しを行いました。
- 3 リスクの分析・評価と事故防止策の検討を行いました。
- 4 対応策の振り返り・評価と体制の見直しを行いました。事故の発生に至らない場合でも、ヒヤリハット事例として職員間で共有しました。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報の保護については、法人の「保有する個人情報の保護に関する規程」、「地域ケアプラザ等における個人情報の取扱基準」に基づき対応しました。

- 1 職員全体会議等を利用した研修を実施し、職員全体で個人情報取扱の重要性について認識し対応を行いました。
- 2 個人情報が含まれるケースファイル等は施錠管理を徹底し、必要時以外の外部への資料の持ち出し、机上放置をしないよう徹底しました。契約書・重要事項説明書・フェイスシート・アセスメント表・介護保険申請書等の書類は、外部への持ち出しが不可欠なので、携行にあたっては訪問先から直帰しない、自転車の荷物カゴに入れる際は盗難防止カバーをかぶせる等の基本的注意を常に怠らないよう細心の配慮に努めました。「個人情報持出簿」にて日常管理を行いました。
- 3 個人情報取扱業務概要説明書を見直し、窓口にて提示・説明できるよう整備をおこないました。
- 4 守秘義務については、明文化したものを全職員はもとより、ボランティア・実習生等事業に携わる者すべてに配付、説明しました。

キ 情報公開への取組について

法人の情報公開制度を基にして、適切に取り組みました。

- 1 保有している文書（電磁的記録を含む）を対象としました。文書に個人のプライバシー情報や法令等の規制で公にすることが出来ない情報など、開示できないものを明確にしました。
- 2 公開に際しては個人の不利益にならないこと、責任者の判断を得ること等を徹底しました。
- 3 閲覧用の決算書、個人情報取扱業務概要説明書、その他情報公開用資料を、窓口で常設し、施設概要、サービス内容等広報資料を見やすく、わかりやすく、常に最新の情報が提供されるよう更新しました。

ク 人権啓発への取組について

横浜市の人権に関する指針や啓発に関する計画に準じて、職員に対する啓発に取り組みました。

- 1 外部機関が開催する研修への参加機会を増やすとともに、職員全体会議等を利用し、職員全体で人権感覚・人権意識の向上を図りました。
- 2 相手の立場に立って、窓口を含めたケアプラザ館内の環境改善、わかりやすい説明や表示・広報物の作成などに努めました。

ケ 環境等への配慮及び取組について

「エコプラザ」を目標に環境や資源に優しい運営を行いました。また、ごみを出さないよう努めるほか、分別を徹底し、環境破壊にならないよう取り組みました。

- 1 光熱水費の削減のため、未使用の部屋の消灯や節水に努めるとともに、必要最低限の電力消費に努めました。
- 2 室内温度の設定も夏は28度、冬は20度に設定を行い、「緑のカーテン」や通所介護事業で使用したお風呂の水や精製水等を活用した定期的な散水（打ち水）により、ヒートアイランド対策による温室効果ガス排出量削減効果や節水の取り組みを行いました。
- 3 デイサービスのお風呂の水を植物の水やりに活用し、水道料を削減しました。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

管理者	保健師等	1名	(常勤兼務)
主任ケアマネジャー		1名	(常勤兼務)
社会福祉士		2名	(常勤兼務)
介護支援専門員		2名	(非常勤専従)

《目標》

○要支援1・2と認定された地域の高齢者に対し、本人ができることはできる限り行なうことを基本とし、また利用者の主体性を尊重した自立支援を目指したプラン作成で行動意欲を高め、家族等の協力を得ながら、自立した生活が維持できるよう支援しました。また、総合事業対象者に対しても同様に、自立支援の視点でケアプラン作成を行い、誰もが安心して自分らしく暮らせることが実現できるような支援を行いました。

○委託契約を結んでいる居宅介護支援事業所との連携及び支援を随時行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●実費負担はありません

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①利用者本位のサービスに取り組みました。
- ②ご自身らしく生活できるよう十分に本人、家族と相談しながら計画をたてました。
○利用者の自立に向けた目標志向型プランの作成に努めるため、地域の社会資源を活用し「包括的・継続的な地域生活支援」ができるよう、居宅介護支援事業所と協力をしていきました。
○高齢者自身が自ら意欲の向上を図れるような知識の提供、日常生活における取組について丁寧な説明と、利用者本人が生活上の課題と改善について気付いていただけるよう提案をしていきました。
- ③支援システムを活用し、事務作業を効率化していました。
- ④自主ケアプラン点検を定期的に行い、職員全員で自立支援に向けたよりよいケアプラン作成の為に研修を行っていました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
218	220	217	218	213	211
10月	11月	12月	1月	2月	3月
212	214	222	220	225	218

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤）
 介護支援専門員 6名（常勤兼務1名、非常勤5名）

《目標》

本会の活動理念に基づき、地域の社会資源として他部門と情報を共有し、地域住民の安心した生活が継続するよう積極的な姿勢で事業に取り組みました。

- 1 利用者の意思を尊重し心身の状況や環境等に応じて、可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活（要介護状態の予防、軽減又は悪化の防止等）ができることを目標に居宅サービス計画を作成しました。
- 2 関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、多様な事業者から総合的かつ効率的にサービスが提供されるように調整し、常に利用者の立場で公正中立な居宅サービス計画を作成しました。
- 3 介護支援専門員等の資質向上を図るため、採用時研修（採用後6ヶ月以内）、定期研修（年1回以上）等の機会を設け、業務体制を整備しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 利用者の負担金はありません。（ただし介護保険料滞納の場合は負担が発生します。）
- 担当者が、サービス提供地域をこえる地域に訪問・出張する必要がある場合には、その利用した公共交通機関の運賃実費の負担をお願いする場合があります。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者の個別性を尊重し、個々のニーズに沿ったサービス計画を作成し、インフォーマルサービスも含め適切な情報提供をしました。
- 質の高いサービス提供ができるように支援体制を強化し、地域包括支援センター等関連機関との連携に努め、課題解決に積極的に取り組みました。
- 適時にケアマネジャーの空き情報を提供し、新規申し込みを受け入れました。
- 相談等を受ける中から把握した個別の課題を地域課題と捉え、必要なサービス開発に結びつけるための取り組みや連携を他部門と図りました。
- 居宅支援事業は地域の社会資源として最も身近な課題を把握する重要な役割を自覚して業務に努めました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
146.5	149.0	146.5	144.0	140.0	141.5
10月	11月	12月	1月	2月	3月
142.5	140.5	140.5	137.0	139.5	132.5

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 事業所は通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。
 (1)生活指導（相談援助等） (2)介護サービス (3)健康状態の確認
 (4)送迎 (5)給食 (6)入浴 (7)個別機能訓練

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1）	614円
（要介護2）	725円
（要介護3）	837円
（要介護4）	948円
（要介護5）	1,060円

● 食費負担

750円

・加算額

（入浴加算）	54円
（個別機能訓練加算Ⅱ）	60円
（サービス提供体制強化加算1イ）	20円
（中重度ケア体制加算）	49円

（介護職員処遇改善加算Ⅰ）所定単位数に40/1000を乗じた単位数

● 2割負担分

（要介護1）	1,227円
（要介護2）	1,450円
（要介護3）	1,673円
（要介護4）	1,896円
（要介護5）	2,119円

● 食費負担

750円

・加算額

（入浴加算）	108円
（個別機能訓練加算Ⅱ）	120円
（サービス提供体制強化加算1イ）	39円
（中重度ケア体制加算）	97円

（介護職員処遇改善加算Ⅰ）所定単位数に40/1000を乗じた単位数

● 通常のレクリエーション以外に行う特別な行事 実費

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 10:15 ~ 15:20 （半角で入力 例9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤）
生活相談員	5名（常勤・非常勤）
看護師	5名（非常勤・兼務）
介護職員	14名（非常勤）
機能訓練指導員	5名（非常勤・兼務）

《目標》

利用者ひとり一人の個別性を大切にした通所介護計画書を作成しました。

また、社会福祉協議会が実施する通所介護として、地域の要介護者の要望に応えられる質の高いサービスの提供に努めました。

地域で活動している団体、ボランティア等と連携し、多様化する利用者の希望に添えるサービスの提供の提供に努めました。

- ①利用者の可能性を大切に「できる」が持続され、また、「今よりできた」につなげられる支援を目指しました。
- ②ヒヤリハットの事例の収集と検討を重ね、事故予防に努めました。
- ③ボランティア等、地域との連携を深め、プログラム活動の充実と地域に開かれたデイサービスを目指しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 季節の行事、近隣の保育園や学校との交流、地域のボランティアによるレクリエーションプログラムを取り入れた多様な活動プログラムを提供しました。
- 介護や看護に係る学生の実習を積極的に受け入れ、人材の育成に貢献しました。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
721	685	722	795	773	713
10月	11月	12月	1月	2月	3月
711	691	656	632	613	693

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

●事業所は介護予防通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。

- (1) 生活指導(相談援助等) (2) 運動器機能向上訓練
(3) 健康状態の確認 (4) 送迎 (5) 給食 (6) 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

(要支援1)	1か月	1,766円
(要支援2)	1か月	3,621円

・加算額

(運動器機能向上加算)	242円
(サービス提供体制強化加算 要支援1イ)	78円
(サービス提供体制強化加算 要支援2イ)	155円
(介護職員処遇改善加算I)	所定単位数に40/1000を乗じた単位数

2割負担分

(要支援1)	1か月	3,531円
(要支援2)	1か月	7,241円

・加算額

(運動器機能向上加算)	483円
(サービス提供体制強化加算 要支援1イ)	155円
(サービス提供体制強化加算 要支援2イ)	309円
(介護職員処遇改善加算I)	所定単位数に40/1000を乗じた単位数

●食費負担 750円

●通常のレクリエーション以外に行う特別な行事 実費

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 10:15 ~ 15:20

《職員体制》

管理者	1名(常勤)
生活相談員	7名(常勤・非常勤)
看護師	5名(非常勤・兼務)
介護職員	14名(非常勤)
機能訓練指導員	5名(非常勤・兼務)

《目標》

利用者一人ひとりの個別性を大切に介護プランを作成しました。また、社会福祉協議会が実施する通所介護として、要支援者の要望に応えられる運動器機能向上に資する質の高いサービスの提供に努めました。地域で活動している団体・ボランティア等と連携し、多様化する利用者の希望に沿えるサービス提供に努めました。

- ① 利用者の可能性を大切に「できる」が継続され、また「今までよりもできた」につなげられる支援を目指しました。
- ② ヒヤリハット事例の収集・検討を重ねて、事故予防に努めました。
- ③ ボランティア等地域との連携を深め、プログラム活動の充実と地域に開かれたデイサービスを目指しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

季節の行事の他、近隣の保育園や学校との交流、地域のボランティアによるプログラムや個別のレクリエーションなど、利用者の個別性に合わせ楽しんでいただけるようプログラムの多様化を図り、利用者に満足して頂けるサービス提供に努めました。
また、介護や看護に係わる学生の実習を積極的に受け入れ、人材の育成に貢献しました。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
19	21	2	21	21	18
10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	18	19	18	17	16

● 認知症対応型通所介護事業

《提供するサービス内容》

●事業所は認知症対応型通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。

- (1) 生活指導(相談援助等) (2) 機能訓練(日常動作訓練) (3) 介護サービス
(4) 健康状態の確認 (5) 送迎 (6) 給食 (7) 入浴

《実費負担》

● 1割負担分

(要介護1)	941円
(要介護2)	1,042円
(要介護3)	1,142円
(要介護4)	1,243円
(要介護5)	1,344円

・加算額

(入浴加算)	54円
(個別機能訓練加算Ⅱ)	29円
(サービス提供体制強化加算Ⅱイ)	19円

● 2割負担分(平成27年8月より適用)

(要介護1)	1,883円
(要介護2)	2,085円
(要介護3)	2,285円
(要介護4)	2,487円
(要介護5)	2,690円

・加算額

(入浴加算)	109円
(個別機能訓練加算Ⅱ)	59円
(サービス提供体制強化加算Ⅰイ)	39円

● 食費負担 750円

● 通常のレクリエーション以外に行う特別な行事 実費

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 10:15 ~ 15:20

《職員体制》

管理者	1名(常勤)
生活相談員	5名(常勤・非常勤)
看護師	5名(非常勤・兼務)
介護職員	14名(非常勤)
機能訓練指導員	5名(非常勤・兼務)

《目標》

利用者一人ひとりの個別性を大切にした認知症対応型通所介護プランを作成しました。また、社会福祉協議会が実施する通所介護として、利用者個々の症状に合わせた個別プログラムなど質の高いサービスの提供に努めました。

認知症に対する理解を深め、利用者の個別性を重視した活動を提供し、住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう支援しました。

利用者の可能性を大切に「できる」が継続され、また、「今までとりもできた」につなげられる支援を目指しました。

ヒヤリハット事例の収集・検討を重ねて、事故予防に勤めました。

《利用者実績（延べ利用者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
35	38	40	36	41	45
10月	11月	12月	1月	2月	3月
46	40	42	44	52	40

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・子ども・障害分野への対応）

- ① 窓口での相談、地域の会議、区役所や区社協の会議などで、個別のニーズや地域のニーズの情報収集を行いました。5職種会議などでニーズの共有や個別支援、地域支援について検討しました。
- ② 子育てサロンの振り返りにて、ボランティアと一緒に参加者からの相談内容の共有などを行いました。1歳児学級や高齢者サロンでも、ケアプラザが生活の相談に対応する機関であることをPRしました。
- ③ 地域の出前講座にてケアプラザが相談機関であることを周知しました。広報誌でもケアプラザの相談機能について周知しました。
- ④ 障害児余暇「なつつこ」を区社協、他ケアプラザ、施設利用団体、地域ボランティアなどと協力のもと実施し、地域の民生委員、障害児の保護者との情報交換を行いました。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携(生活支援体制整備事業も含む)

生活支援コーディネーターを加えた5職種が連携し、地域住民主体で地域特徴や課題に合わせた支援を行いました。地域包括支援センター職員は「個別支援から地域支援」へ、地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターは「地域支援から個別支援」への視点を中心として、各職員の専門性を活かした業務連携を行い、個別ニーズや地域ニーズを把握・共有し、個別支援や新たなサービス開発、単位町内会の中での身近な支え合いのつながり作りなど、地域支援に結びつけました。

特に地域福祉保健計画、地区別計画を推進して行くにあたり、5職種会議を定期的（月1回）に開催し、情報の共有化に努めました。

地域アセスメントシートの作成や地区支援記録については、5職種、区や区社協とともに作成・共有し、共に地域の福祉活動が活性化するように活用しました。

また、それぞれの部門で年間事業予定表を作成し、年度を通し状況を把握することで、当該年度だけではなく、中・長期的な目標を確認しながら支援を行いました。

3 職員体制・育成

11/1より、法人内の人事異動により包括支援センター事業において、主任ケアマネジャー1名の欠員が生じました。

・年度当初に、非常勤を含めて全職員を対象に、ケアプラザの意義や役割の確認、人権擁護や個人情報保護など職員としての基礎を確認する機会をつくりました。

・法人内部の研修として、苦情対応や各種専門職の研修として、プレゼンテーションや、地区診断、相談援助等を受講しました。

また、研修参加した職員のみならず、部署ごとに報告の場を設け、伝達研修を行いました。

・部門ごとの定例ミーティング（非常勤職員含む）や常勤職員会議等で、部門の現状や課題、職員の健康状態、ヒヤリハット事例の共有により風通しのより職場づくりに取り組みました。

業務予定に合わせたローテーションづくり、部門ごとのスケジュール調整、役割分担の見直しなどにより、人件費支出が前年度比で減額傾向にあり、効果的な執行が実現しています。

・ケアマネジャー対象の発行物への掲載や全国包括研究大会などの機会を通じて、ケアプラザや担当エリア内の活動実践について職員による発表を積極的におこなうことで、職員育成を図るとともに推進役としての役割を果たしました。

4 地域福祉のネットワーク構築

- ① 大久保最戸地区では、障がい児者の親の会や事業所、地区社協と情報交換会を行い、つながりを深めました。
- ② 住民支え合いマップを通して、地域の課題の発見やつながりづくりの構築を実施しました。
- ③ 草取りなどの個別相談を助け合いグループ「茶卓」や地区社協に相談・連絡し、支援をしました。
- ④ 区社協との定例会議の開催、身近な地域の支え合いに向けて研修の共同開催、住民支え合いマップの推進を行いました。地区別計画の推進において、区役所、区社協と連携し支援しました。
- ⑤ [保育園・学校]
南高校とは、文化祭のケアプラザ出展や、料理部との活動でつながりを深めました。
南陵高校とは、ふれあいまつりの中で多くの高校生がボランティアとして参加し地域との交流を図りました。
下永谷小学校とは、総合の時間でケアプラザを紹介する時間をもち、小学生にむけてケアプラザ、ボランティア等につき理解をはかり、その後デイサービスに来所し高齢者と交流をもちました。
[公共施設・地域の商店]
芹が谷出張所の消防隊員に、子育て支援ボランティア講座の子どもの救命訓練の講師をお願いしました。
[地域住民・地域団体]
さつき台自治会の住民には、ふれあいまつりの準備、実施、片づけまでボランティアとして協力いただきました。
NPO 法人ちゅーりっぷとは、共催で「平成 28 年度地域における父親育児支援講座」を開催実施しました。

5 区行政との協働

- 個別支援については、定例のカンファレンス等での共有及び協議をベースとして、虐待防止を含め権利擁護が必要な案件については速やかに行政に報告の上、対応するよう心がけました。
- 地域支援については、職種連絡会や担当エリアのミーティングの機会を活用しながら支援方針や取組の共有を図り、大久保最戸地区において福祉ネットワークの組織化に繋がりました。
- ウォーキングポイントや健康スタンプラリーへの積極的協力のほか、10 月より区域の「ひまわりホルダー」事業を展開しました。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ① 5 職種で「地区支援記録」を活用し、日常のニーズの発見をするよう努めました。関係機関と情報共有し、課題の発見や解決について検討、取り組みを行いました。
- ② 地域の会議（連合・民児協定例会等）や事業（祭り・講座・防災訓練等）に積極的に参加し、住民との関係作りや情報収集・提供に努めました。また、ケアプラザで把握した担い手や資源を各地区で共有しました。
- ③ 地域包括支援センターとは、5 職種ミーティング（毎月）での情報共有や、事業（祭り・認知症サポーター養成・配食事業等）での相談・情報共有を行い、個別支援と地域支援の調整を行いました。
- ④ 大久保最戸支援チーム会議を随時開催し、区役所・区社協との情報交換、連携の場を設けます。永谷・永野地区については、近隣ケアプラザで開催されている支えあいネットワークに出向き、情報収集・提供に努めました。
- ⑤ 会場利用者懇談会や各利用団体の日々の交流等を通して、日頃ケアプラザを利用している方からの要望や意見の収集に努めました。
- ⑥ ケアプラザから遠方の地域へは、地域包括支援センターや近隣地域ケアプラザと協

働して、地域に出向いての事業実施や情報提供に努めました。

- ⑦ ケアプラザ広報紙の発行（隔月・班回覧）、広報よこはま区版や区社協広報紙、タウンニュース、ケーブルテレビ、ホームページ、ブログ等様々な媒体を通して、一般住民の方への情報発信を行いました。
- ⑧ ケアプラザ内の情報コーナーを分かりやすく整備します。事業チラシの窓口設置や各部屋への掲示などにより、多くの方の目に触れるように努めました。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ① ケアプラザ利用団体に対して、福祉活動への参加を進めます。ケアプラザ事業の高齢者サロンでの活動の披露や福祉教育の講師を依頼し、活動の場を提供しました。
- ② エコプラザは、ボランティア団体(てまり・おはり箱・水仙クラブ)や地域の個人ボランティアと協力して実施しました。
- ③ ふれあいまつりは、個人ボランティア、ボランティア団体、地域の自治会、福祉事業所、地区センターと協力して実施しました。
- ④ 貸室の空き状況一覧や予約の手順も掲示しました。
- ⑤ ボランティアの集いや利用者懇談会をとおして、団体同士の相互理解や互いの活動への協力が生まれるように、グループ間の交流などを行いました。
- ⑥ 利用者懇談会では合同清掃等をとおしてケアプラザ運営への住民参加を進めました。

3 自主企画事業

- ① 事業参加者からのアンケート、地域や関係機関から寄せられた情報や予算等から総合的に判断し、包括支援センターやサブコ会議で検討のうえ、自主企画事業を企画しました。
- ② ボランティアコーナーでのギャラリーを通して、地区センターの利用団体や地域の団体とのつながりを深めました。
- ③ 南高校料理部と共催で小学生とのおやつ作り、シニア男性との交流でのカフェの事業を実施しました。
- ④ 花植えボランティア「水仙クラブ」と協力し、草取り・花植えボランティア活動「グリーンデイ」を開催しました。
- ⑤ 事業参加者からアンケートを取り、来年度への改善点を洗い出しました。
- ⑥ 全ての自主事業について参加者主体を目指した運営を心がけました。保育園やヘルスメイト、ボランティア等、できる限り地域と連携した形で実施しました。
- ⑦ 高齢者サロン「ひなたぼっこ」では、毎回ゲストとして地域の方やケアプラザ利用団体にレクリエーションや活動の披露を行っていただきました。
- ⑧ 地域包括支援センターと連携して自治会や事業所、学校等での出前講座・福祉教育を実施しました。
- ⑨ 子育て支援として1歳児学級「ひよこ・くらぶ」を地域の子育て支援ボランティアグループ「ひよこサポーターズ」とともに運営し、親子どうし、地域のボランティアとの交流をはかりました。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

- ① ケアプラザでのボランティア受け入れに関しては通所部門と連携し、パンフレットの作成、登録様式や方法の見直し等を行いました。新規にボランティア登録をした方には、パンフレットやチラシを用いて、オリエンテーションを行いました。
- ② 区ボランティアセンター等と連携し、ボランティアの受入を行いました。相談・調整を記録し、職員同士共有しました。
- ③ コーディネートに必要な情報を整理し、他部門も含め全ての職員が利用できるようにしました。
- ④ 自主事業の受講者に対して、ボランティア活動の機会の提供や情報提供をしました。
- ⑤ ケアプラザ内や地域で活動するボランティアグループに対して、運営や経理の相談、講座の開催、ボランティア募集、事故時の対応等、支援を行いました。
- ⑥ 子育て支援ボランティア講座を実施し、1歳児学級の講座と一緒に運営しました。
- ⑦ 花植えボランティア、水やりボランティアを募集し、新たなボランティアを発掘しました。水やりボランティアは子どもから高齢者まで募集し、ボランティアの世代間交流の場にしました。
- ⑧ 祭りやエコへの取り組み（打ち水）など、誰でも参加しやすい魅力ある活動を提供しました。
- ⑨ 広報紙やホームページ、ブログ、掲示などをおして、ボランティアの活動を生き生きと伝え、新たな担い手を募集し続けました。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

「総合相談」は地域包括支援センターの中でも、本人と関わりを持つ「最初の窓口」です。「身近な相談窓口」「ワンストップサービス」を基本に、地域住民が住み慣れた「まち」で安心して暮らしていくことができるよう、総合的な支援を心がけ、取り組んできました。

窓口や電話での相談対応に際しては、懇切丁寧な対応を行い、ケアプラザのみでは対応できない相談でも、専門の相談機関への紹介・つなぐ等、連携を心がけました。

民生委員等、地域の福祉保健関係者と連携して、継続的な見守りが必要な単身世帯・高齢夫婦世帯や認知症高齢者のいる世帯などの相談対応を行いました。

ケアプラザで開催している介護予防や高齢者サロン等の参加者の状況等を地域交流コーディネーター等の他職種と情報交換を行うことにより、実態把握を行いました。

自治会・町内会や民生委員児童委員協議会など地域の会議に積極的に参加し、また生活支援コーディネーター等の他職種とも連携し、高齢者の立ち寄る機関（郵便局・コンビニ・商店・交番・配達業者等）とのネットワークを形成に向け、顔の見える関係づくりを心がけてきました。それにより個別・地域ニーズを汲み取り個別支援につなげていけるよう取り組みました。

地域ニーズに応じた講座、勉強会等を開催しました。

地域包括支援ネットワークの構築

- ・ 包括エリア内の地区民児協へ積極的に出席をしました。
- ・ 区役所作成資料やケアプラザ独自の資料などを用いた地域包括支援センターの積極的周知を行いました。
- ・ 包括エリア内の地区社協や助けあいグループの活動情報交換会を実施し、お互いの情報交換を行い、課題解決に向けた話し合い、そこからの発展を目指しました。
- ・ 地域ケア会議を実施し（支え合いマップと個別ケースの地域ケア会議）、在宅で長く暮らせるように（在宅で看取りができる）地域と福祉と医療が連携をとり見守り支え合える地域を目指し、取り組みました。

実態把握

生活支援コーディネーター、地域活動交流事業コーディネーターやケアマネジャー、地域住民、関係機関と地域で気になる高齢者等の情報を共有できる体制を構築できるよう取り組みました。

- ① 地域で行われる地区民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会定例会議、連合町内会会合等の会議や行事に参加して情報収集を行い、実態把握に努めるとともに、顔が見える関係づくりを行いました。
- ② 直接来館することが出来ない相談者や相談者の生活状況を直接把握する必要性があると判断した場合、専門関連機関や他職種（区役所の福祉職、保健師、ケアマネジャー等）、相談者の家族と連携をとりながら、直接相談者の自宅を訪問することによる実態把握を行いました。
- ③ 総合相談ケースを町名毎の集計を行い、量的データの蓄積から読み取れる傾向や課題等を把握に努めました。
- ④ 各事業のアンケート結果や運営協議会、地域包括支援センター職員等が参加した地域の様々な会議からいただいた意見を反映できるよう努めます。
- ⑤ 住民支え合いマップづくりを地域に出向き実施することで「地域の特徴や強み」「地域住民の状況」や「地域資源」など住民とともに見える化をして実態把握に努めました。

2 権利擁護

権利擁護

虐待や悪徳商法のターゲットにされやすい高齢者の権利を守るため、また高齢者に限らず、障害児・者や子供などで権利を侵害されている人に対しても、身近な相談機関として幅広く対応できるスタンスを持ち、迅速且つ適切に対応し関係機関と協働を心がけました。

- ① 区役所やあんしんセンターと連携し、権利擁護に関する相談対応・各種制度の申し立て支援に対応しました。
- ② 成年後見サポートネットワーク等の関係会議に参加し、弁護士・司法書士等の専門職種との連携に取り組みました。
- ③ 成年後見制度や任意後見制度、あんしんセンター事業を地域に分かりやすく啓発するため、寸劇を自治会や地域のサロンで上演などを行いました。
- ④ ケアプラザで開催している事業や地域の情報から、権利が侵害されている情報を汲み取り、他職種と連携した対応を心がけました。

高齢者虐待

常に権利擁護の視点に念頭を置いた相談対応を心がけ、実践しました。通所介護事業や居宅介護支援事業所と日頃から連携を持ち、高齢者虐待を把握した場合には、速やかに行政に報告し、介護者支援の視点を持ち、虐待の防止と保護に努めました。また、区役所との定例カンファレンスなどの場を活用して、虐待事例や虐待が疑われる事例に対する情報共有や支援の方向性の確認を行いました。高齢者虐待に関する理解促進を図り、相談機関の存在等を地域に分かりやすく啓発を行いました。

認知症

総合相談で認知症の相談が増えていることや、地域ケア会議・住民支え合いマップからの気になるケースなどが認知症疑いなど、地域での認知症理解が必要という課題があります。認知症の正しい理解促進を目指し、地域住民、自治会向けなど、高齢者の関わる機関や高校生等の幅広い世代に認知症サポーター養成講座を開催しました。講座開催の際にはキャラバンメイトにも参加していただき、地域の中で認知症高齢者を支える取り組みについてPRを行いました。

認知症高齢者の介護者支援を目的とした介護者の集いを定期的で開催し、介護者同士のピアカウンセリングや介護に関する情報交換を行いました。

地域の福祉保健関係者や区役所等と連携し、認知症高齢者の相談に対応し、状況確認を行うとともに、介護者支援を心がけた対応をしました。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

二次予防対象者、要支援1・2と認定された地域の高齢者に対し、本人ができることはできる限り自ら行えるよう「自立支援」を行うことを基本としました。また、利用者の主体性を尊重し、自立支援を目指したプラン作成で行動意欲を高め、家族等の協力を得ながら、自立した生活が維持できるよう支援を心がけました。

また、介護予防支援業務委託契約を締結している居宅介護支援事業所との連携やスキルアップの機会の提供等の支援を行いました。

- ① 利用者の自立に向けた目標志向型プランの作成に努めるため、地域の社会資源を活用し「包括的・継続的な地域生活支援」ができるよう、本人や家族、居宅介護支援事業所と協力し、取り組みました。
- ② 高齢者自身が自ら意欲の向上を図れるような知識の提供、日常生活における取り組みについて丁寧な説明と、利用者本人が生活上の課題と改善について気付いていただけるよう、インフォーマル事業やサービス等の活用を提案していきました。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

地域ケアプラザ広報紙や自主事業、出前講座、地域の食事会、地区民児協等を活用し、地域住民に対して介護保険制度の概要や介護予防に加え、権利擁護関係の情報発信、「認知症になっても住みやすいまちづくり」を目指した普及・啓発活動を行いました。

- ① 当施設地域包括支援センター担当エリアである「大久保・最戸地区」「永谷地区」「永野地区」の地区民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会定例会議、連合町内会会合等に地域包括支援センター3職種と地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携・協力しながら参加し、相談しやすい顔の見える関係を日頃から構築し、住民主体での活動状況や活動上における課題等、地域のニーズを把握して関係機関とともに課題解決に向け取り組んできました。
- ② 既存の「港南区民生委員・ケアマネジャー連絡票」について、集まっている連絡票の状況確認を引き続き行い、終了者（施設入所・死亡など）の連絡票の回収等を行い、それぞれにケアマネジャーや民生委員に引き継ぎを行うことを心がけました。

医療・介護の連携推進支援

既存の「港南区医療機関情報シート」について、医療とスムーズな連携が図れるよう、研修会の場等で引き続き周知を行い、新たに開設した居宅介護支援事業所へ提供していきます。また、当該シートの更新方法等について、港南区主任ケアマネジャー分科会で検討しました。

- ① 在宅医療に関する情報交換を行い、ケアマネジャーをはじめ介護事業所との多職種間の連携強化（医療と福祉のネットワーク構築）を目指す「医福（いっぷく）ネット港南」を年3回、開催しました。
- ③ 地域のドクターとケアマネジャーとの連携がスムーズにとれるよう、施設協力医の健康相談日に合わせて「ドクターとケアマネの相談タイム」を月1回程度、開催しました。
- ④ 「看取り」をテーマとしてシンポジウムを行い、往診風景などを撮影したVTRを上映しつつ、在宅医療を行う3人の医師の方や医療相談室などと往診と定期訪問の往診との違いなどの説明を行いました。実際の民生委員やボランティアや自治会の会長など地域の活動者の方やケアマネジャーやサービス事業所の方や福祉用具の方や区や区社協の方々150名が参加が得られ、在宅での看取りや訪問診療についての考え方やイメージを変えるきっかけとなりました。

ケアマネジャー支援

日常業務の中でケアマネジャーから個別相談や支援困難事例等へのサポート等を行ってきました。

また、ケアマネジャー同士の連携推進やケアマネジメントの質の向上を目指し、次のような取り組みを港南区全体で行いました。

- ① ケアマネジメントを実践するために必要な情報の共有や精神的サポート等が可能となるよう、気軽に相談できる場の提供とケアマネジャーのスキルアップ、相互の連携支援を目的として、月1回程度「ケアマネサロン」を開催しました。奇数月は港南中央地域ケアプラザ、偶数月は港南台地域ケアプラザを会場として、港南区主任ケアマネジャー分科会協働で開催しました。
- ② 港南区福祉保健センターと港南区主任ケアマネジャー分科会との共同企画として、上半期に「新任・就労予定ケアマネジャーのための施設見学会」、下半期に「初級ケアマネジメント講座」を実施しました。下半期の講座が終了した後、実習の振り返りを行うとともに、参加者による自主勉強会の立ち上げ支援を行いました。
- ③ 昨年度までに実施した「初級ケアマネジメント講座」をきっかけとして立ち上がった4つの自主グループの勉強会について、9名の主任ケアマネジャーで引き続き、サポートを行いました。
- ④ 港南区ケアマネジャー連絡会への支援を引き続き行います。具体的には連絡会との情報共有を図り、港南区で活動するケアマネジャーの状況や課題を把握するとともに、ケアマネジャー自身が自ら必要なスキルを考え、スキルアップに向けた取り組みを行えるよう、当該連絡会における研修会等の企画、実施に向けたサポートを9名の主任ケアマネジャーと協働（輪番）で行いました。
- ⑤ 要支援および総合事業対象者を委託している居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、ケアプラン作成時の支援やサービス担当者会議等において助言等を行い支援継続しました。
- ⑥ 東永谷地域包括エリア内の助け合いグループ（インフォーマル）の情報提供をし、介護サービス事業所だけではなく、多様なサービスからよりよいケアマネジメントが行えるように情報発信しました。
- ⑦ 平成26年度から地域ケア会議をしている継続的なケースの方で地域の方々の他、主治医にも参加してもらいました。平成27年度には介護保険サービスがつながりケアマネジャー支援でその方の隣のケアマネジャーや地域の方や主治医にもきてもらい実施しました。平成28年度にはケアマネジャー支援とお店の方や主治医と警察や地域の方と介護保険サービスとして入っていないデイやヘルパーのできることを検討しました。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

- ① 「地域包括ケアシステムの実現」にむけて、地域ケア会議を実施しました。地域ケア会議（支えあいマップと個別の地域ケア会議）は、「地域包括ケアシステムの実現」に向けた1つの手法として、地域と福祉、医療などが高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備（地域づくり）を同時に図っていくことを目的とし、中・長期的な視点に立った運営ができるよう努めました。
- ② 港南区社協が把握している区域での地域課題解決に向けた取り組み（地区社会福祉協議会と住民参加型団体との連携強化）に協力し、取り組みました。

5 介護予防事業

介護予防事業

高齢者が住み慣れた地域で介護予防を意識して、具体的な取り組みを始める機会を提供し、日常生活の中で身体状況に応じた介護予防活動を実践する高齢者が増えることを目指し、取り組んできました。

介護予防についての意識の向上を図り、その後、地域の社会資源である健康教室への参加、サロンや体操教室への参加等、「元気づくりステーション」の取り組みが行えるように支援しました。また、健康づくりの場の連絡会を開催し、地域の健康づくりの場の支援者との連携を深め、見守りネットワークの構築を目指して取り組みました。

- ① 地域のサロンなどに出向き、地域アセスメント（地域診断）を行い、戦略的に地域の活性化、元気づくりステーション等、地域のボランティア育成の講座を実施しました。
- ② 民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会定例会議、シルバークラブ等へ参加して周知してきました。
- ③ 地域の食事会、会合等へ参加して高齢者への健康相談を行うとともに介護予防の普及啓発に努めました。
- ④ 地域ニーズの把握に努め、さらに区や区社協、地域活動交流コーディネーター等と協力しながら、既存の社会資源への協力体制の整備と必要な資源の開発に努めました。
- ⑤ 地域ケアプラザや地域の中でサロンや活動している方の連絡会を開催して課題を把握し、課題解決に向けたサポートを行いました。
- ⑥ 区と区社協と協働で介護予防や健康づくりに関する情報共有を行い、地域の健康づくりの場の支援者等との連携を深め、諸事情により地域のサロン活動に参加が難しくなった方々等への継続的な支援ができるしくみづくりを目指して取り組みました。
- ⑧ 福祉ネットワークや助け合いグループ「茶卓」等の助け合い活動を対象に、事例発表を通じた情報交換会を行い、活動のフォローアップを行いました。
- ⑨ 「支え合いマップづくり」を行い、「地域住民の状況」を見える化をして「課題」「地域資源」などを地域住民と把握して一緒に課題解決に向けた行動を検討して実施を地域に出向いて行いました。

6 生活支援体制整備事業

- ① 地域ケア会議のツールとして住民支え合いマップを推進し、住民主体で課題解決をしてゆけるよう支援しました。

最戸町友会

民生委員と長寿会の友愛活動推進員の見守り情報交換会を実施し、顔合わせと情報共有を行いました。

最戸2丁目のマップ作りを行い、把握した地域特徴や課題をもとにDIG

（災害図上訓練）を行い、実際に町会の方とその災害図上訓練の地図で街歩きをしました。災害対策の視点から見守りや助け合いの取組を

住民主体で検討・推進しました。

渡戸自治会

マップから見えてきた課題から全戸配付の渡戸版あんしんカードを作成しま

した。カードの作成にあたり全会員に住民アンケートを行い、近隣とのつながり・防災・助け合いについての質問を行いました。アンケートの内容から、渡戸版のあ

んしんカードの作成、個人情報保護法のことや助け合いについての講演会を開催しました。そのあんしんカードの説明会のアンケートから助け合いをしたいという19名の方が記名して頂き、助け合い広場渡戸支部ができました。

桜台自治会

会長、民生委員、千歳会会長や班長が参加し、全班のマップ作りを取り組みました。マップの取組から地域で「お一人様の会」が立ち上がり、現在定期的に開催されています。

- ①課題解決に向けて地域の強みや特性を活かした社会資源の開発を地域住民と一緒に行いました。
 - ・大久保最戸地区の助け合い活動について、個人宅の剪定・草取り・ゴミ出しなどの地域の方々による助け合い活動を重ね、福祉ネットワークの体制づくりを行いました。
 - ・地域交流と共催でDIY講座を開催しました。美晴台助け合いグループ、さつき会、茶卓、フレンズ港南、永野地区福祉ネットワークを講師に、参加者を各助け合い活動につなげることを目標に実施しました。
 - ・大久保中のリリィパワーズにて折り紙教室を、活動相談者、民生委員、リリィパワーズ職員と立ち上げました。周辺地域の方の参加も可能で、地域の交流の場として立ち上がりました。
- ②「地域の高齢者の見守り」について、地域住民、コンビニ、郵便局等と実際の見守りの方法や連携について意見交換をする協議体を開催しました。

7 その他

平成28年度は介護保険制度改正をはじめ、生活困窮者自立支援法や子ども・子育て支援制度の施行、新オレンジプランが策定される等、社会福祉全般を取り巻く環境が大きく変わった一年でした。

それらは地域福祉と関係が深く、その課題の発見と解決には生活に根ざした地域住民の支えが不可欠です。私たちは、その実現に向け、活動理念である「誰もが安心して暮らせる地域社会をみんなで作ります」に基づき、地域の皆さまと歩み、進むことを心がけました。

また、第3期の港南区地域福祉保健計画が策定される中、その内容を踏まえ、地域の皆さまと共に、行政、関係機関と連携し地区別計画の推進を目指し取り組みました。

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名：東永谷地域ケアプラザ

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護 ・ 第1号通所介護	認知症対応型	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援					
収入	指定管理料等収入	15,311	29,252	151	0	0	1,806		0	5,789
	介護保険収入	0	0	0	12,685	21,448	93,817		9,208	0
	その他	140	116	0	0	0	439		0	28
	介護予防ケアマネジメント費		0	0	0	0	238		0	0
	雑収入	48	116	0	0	0	201		0	0
	寄付	5	0	0	0	0	0		0	0
	負担金	87	0	0	0	0	0		0	28
収入合計(A)		15,451	29,368	151	12,685	21,448	96,062		9,208	5,817
支出	人件費	10,489	23,860	0	5,680	17,372	44,424		8,608	5,063
	事務費	1,305	1,644	0	13	85	283		105	
	事業費	148	-6	151	6,213	831	25,550		1,050	241
	管理費	4,392	1,176	0	0	0	0		0	
	その他	1,341	1,672	0	0	0	5		0	0
	修繕費	358	95	0	0	0	0		0	0
	運営委員会	28	0	0	0	0	0		0	0
	協力医	0	252	0	0	0	0		0	0
	消費税	839	0	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0	0	5		0	0
返還額	116	1,325	0	0	0	0		0	0	
支出合計(B)		17,675	28,346	151	11,906	18,288	70,262		9,763	5,304
収支 (A) - (B)		-2,224	1,022	0	779	3,160	25,800		-555	513

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①主な対象者	自主事業予算額					
	②延べ参加人数	総経費	収入		支出		
	③自主事業決算額		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
ひよこ・くらぶ(春)	1歳児の親子	11853	2353	9500	6000	4173	1680
	73組						
	11853円						
春の種まき講習会	どなたでも	3137	3137	0		3137	
	46組						
	無料						
高齢者サロンひなたぼっこ (定例)	65歳以上の方	69018	418	68600		69018	
	343名						
	200円/回						
高齢者サロンひなたぼっこ (特別イベント)	65歳以上の方	560	560	0			560
	7名						
南高校スイーツ交流	小学生	12844	10244	2600		12004	840
	44名						
	100円						
ふれあいまつり	どなたでも	40122	9172	30950		40122	
	600名						
エコプラザ	どなたでも	17858	17858	0		13378	4480
	318名						
	無料						
南高祭イベント出展	どなたでも	6123	6123	0		6123	
	無料						
ひよこ・くらぶ(秋)	1歳児の親子	9565	3565	6000	6000	2165	1400
	60組						
	500円						
高齢者サロンひなたぼっこ (バス旅行)	65歳以上の方	56810	56810	0		56810	
	23名						
	なし						
会場利用団体懇談会	利用登録団体	10391	10391	0		10391	
	34団体						
	無料						
グリーンデイ	どなたでも	13058	13058	0		13058	
	134名						
	無料						
こうなんなつっこ	学齢障害児	14279	14279	0		14279	
	8名						
	2500円						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市東永谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育てサロン「めだか」	0歳～未就園児の親子を対象に、親同士や子ども同士が交流し、子育て支援に関する情報提供、子育ての悩み等を話し合える場としました。ボランティアの募集・育成も行いました。	毎月第4火曜日 10:00～11:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
パパサロン「くれよん」	0歳～未就園児の父子を対象に、父親同士や子ども同士が交流できる場を提供しました。ボランティアの募集・育成も行いました。	毎月第1土曜日 10:00～11:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
1歳児学級応援ボランティア講座	子育て支援ボランティアを育成し、講座終了後1歳児学級と一緒に運営することを目的にボランティア講座を実施しました。	9月6日・13日・27日・10月4日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
1歳児子育て学級「ひよこ・くらぶ」春・秋	1歳児の親子を対象に、親子のふれあいの場、学びの場として実施します。プログラムを通して、より良い親子関係を気づく一助とします。母親同士の交流も図りました。	5月31日・6月11日・14日・21日・7月5日 11月15日・26日・

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ヘルスマイト協働事業「食育講	子育て中の親子を対象に、ヘルスマイトや参加者同士のふれあい交流を通じて健康作りの普及啓発を行うことを目的としました。	10月6日 10:00～12:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
南高校料理部・スイーツ交流！	地域の小学生を対象に、スイーツ作りを行い、南高校の料理部の生徒と地域の子どもとの交流を目的とし実施しました。	8/5 13:30～15:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「ひなたぼっこ」	65歳以上の方を対象に、歌や体操などをとおしての仲間づくりや、地域包括支援センターと協力して介護予防の啓発を行いました。会場利用団体の発表（ボランティア）の場としても活用しました。	毎月第3木曜日 13:30～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「ひなたぼっこ」野球観戦	高齢者サロン「ひなたぼっこ」の参加者を対象に、野球観戦ツアーを実施します。仲間づくり、閉じこもり予防、遠出の外出づくりの機会の創出、参加者間の交流を目的に実施しました。	8月3日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「ひなたぼっこ」バス旅行	高齢者サロン「ひなたぼっこ」の参加者を対象に、日帰りのバス旅行を実施します。仲間づくり、閉じこもり予防、遠出の外出づくりの機会の創出、参加者間の交流を目的に実施しました。	2月23日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ふれあいサロン「おりがみサロン」（共催）	概ね65歳以上の方を対象に、おりがみをとおしての仲間づくりや、デイサービスなどで活動するボランティアの養成を行いました。	毎月第1火曜日 13:30～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふれあいカフェ「あんず」（共催）	ボランティアグループ「あんず」、障害者の事業所「ジャンプ」との協働により、パンや飲み物を販売します。メンバーの働く場や地域とのふれあいの場とし、地域への障害者理解・啓発の機会としました。	毎週木金曜日 11:00～14:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障害者地域作業所交流事業 ロビー販売（共催）	ケアプラザロビーでの障害者の事業所等の自主製品の販売をとおしての地域との交流の場とし、地域への障害者理解・啓発の機会としました。 ①「そよかぜ南の家」②「フラワーロード」	①毎週火曜日 ②毎週水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
区社協協働事業 夏休み障害児余暇支援事業「なつっこ」（共催）	区社協や近隣地域ケアプラザ、特別支援学校と協働し、学齢障害児を対象とし、地域のボランティアとのふれあいと余暇の時間を提供するとともに、ボランティア育成を行いました。	8/1（月） 10:00～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男性ボランティア手づくりカフェ	男性ボランティアの仲間づくり・ボランティア育成、地域の方々の交流の場の創出を目的にカフェを実施しました。	毎月第2月曜日 14:00～16:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
グリーンデイ	花植え等のボランティア活動を通して、仲間づくり、地域参加を行うこと、ボランティア育成を目的に実施しました。	第3木曜日 9:30～11:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
種まき体験	種まき体験を行い、半分を個人の苗として、もう半分をケアプラザの植え込みに植えることとして、花植えに関わる地域の方を増やしました。また、花植えボランティア「水仙クラブ」のPRの機会としました。	4月21日 5月19日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
配食ボランティア「てまり」（共催）	配食ボランティア「てまり」と共催し、高齢者や障害者世帯等へのお弁当の配達をとおして、ふれあいや見守りを行いました。支援が必要な方については地域包括支援センターと連携して対応しました。	毎週水曜日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
配食ボランティア「てまり」会食会（共催）	「てまり」の配食サービス利用者を対象に会食会を行い、利用者やボランティアとの交流や、活動への要望をうかがう場としました。	春：5/11(水)
手作りボランティア「おはり箱」（共催）	高齢者や高齢者、介護者等を対象に、お直しの活動を行いました。親子向けに針仕事のお手伝い等も行いました。	おはり箱活動日： 毎月第1・2・4水曜日
おはり箱講座「お野菜を作ろう！！」	作品作りをとおして、仲間づくりやボランティア育成のきっかけとしました。手づくりボランティア「おはり箱」のPRの機会にしました。	7/13・27・8/3
布おもちゃ・車いす等の貸出	手作りの布おもちゃや車いす等の貸出をとおして、地域の育児支援や生活の支援を行いました。	毎日
会場利用者懇談会	会場利用登録団体に対して適切な利用の周知や要望をうかがうと共に、団体同士のネットワーク作りやボランティア活動へのきっかけ作りを行いました。	3月14日
地域ケアプラザ・地区センター合同祭「ふれあいまつり」（第19回）	ボランティアや障害者団体等による出店、展示等をとおして地域住民の交流やふれあいの場、地域ケアプラザの周知、ボランティア発掘の機会とした。	11/15(土) 10:00～14:00
広報紙「ふれあいの丘」の発行	地域ケアプラザの役割の周知や福祉保健等に関する情報提供を行うために、広報紙「ふれあいの丘」を発行し、近隣町内会での回覧や関係団体への配布を行いました。	6回発行 (各回1,500部発行)
ボランティアコーナーギャラリー	ギャラリーを通じた地域の方々との交流を目的に、趣味サークルや個人にボランティアコーナーを貸し出しました。	・10月14日～15日 ・10月27日～29日 ・3月16日～20日
東永谷地域エコプラザ	地域ケアプラザと住民が協働でエコ活動（グリーンカーテン・打ち水・ゴーヤ感謝祭・館内の節電等）に取り組み、特に乳幼児の親子等も含めて参加を呼びかけ世代間の交流につなげました。	・7月29日 ・8月2日 ・17日・29日
地区別計画の推進の支援	大久保最戸地区の「ハートのあるまちづくり」の推進を支援しました。永谷・永野地区については、近隣の地域ケアプラザと協働で支援を行いました。	随時

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
運営協議会	地域ケアプラザのよりよい運営を図るために運営協議会を開催し、地域の様々な声や要望を事業に反映出来るよう、委員の意見を十分に取り入れて開催しました。第2回目は地域ケア会議として実施しました。	6月 3日 11月 4日 3月 17日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康マージャン「ふれあい倶楽部」	『健康マージャンを楽しむ会をつくりませんか』のOBが中心となり、平成23年4月自主化しました。地域ケアプラザは側面的に支援しました。 ※「ふれあい倶楽部」と共催	第1第2第4木曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
転倒予防体操教室「花みずきの会」	簡易な体操を通じた健康維持と参加者同士の交流の場です。平成16年度より開催した「転倒予防教室」受講者のOB会として発足し、20年度からは自主事業化しました。地域ケアプラザは側面的に支援しました。 ※「花みずきの会」と共催	毎月第2第4金曜日 10:30～12:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いきいき体操教室	地域の介護予防を目的として、簡易な体操を通じた健康維持と参加者同士の交流を行いました。 ※「いきいき体操教室」と共催	第2・4金曜日 13:30～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気体操教室	認知症予防、健康づくり、ボランティア育成と交流を目的に体操教室を実施しました。	第4月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
けやきの会	簡易な体操を通じた健康維持と参加者同士の交流の場です。平成22年度より開催した「転倒予防教室」受講者のOB会として発足し、23年度からは自主事業化しました。地域ケアプラザは側面的に支援しました。	第2・4月曜日 13:30～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
東永谷地域ケアプラザブログ「ながみちゃん日記」	ケアプラザの事業、地域の出来事などをブログにて発信しました。	毎月7回以上更新

事業名	目的・内容	実施時期・回数
快適！暮らしの達人DIY講座	地域での助け合い活動に関心をもってもらい、活動につながるよう地域のボランティアグループ、福祉ネットワークメンバーに講師になってもらい交流を持ちました。	平成28年12月4日 平成29年1月2日 2月5日・3月5日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
パパと子で楽しく遊ぼう！	父親の子育て支援 親子遊びなどを通して親子のより良い関係作り 父親同士の地域での仲間づくりのきっかけをつくる	12月3日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者の集い「白鳥の会」	家族等を現在介護している方・介護経験者を対象に、介護に関する悩みや情報交換をし日頃の介護疲れ等のリフレッシュを図ると共に、よりよい介護を行うことができるよう支援をしました。茶話会等を中心に行いつつ、介護保険・権利擁護等に関する知識の学習や老後の生活に関する勉強会などの企画を盛り込み、地域住民への情報発信を行い、参加者との交流を図りました。	毎月第3水曜日 13:30～15:30

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域の身近なドクターによる健康相談	地域で働くケアマネジャーが、医師と直接面談してアドバイスを受けられる機会を定期的に設け、顔の見える関係作りを支援しました。地域ケアプラザの近隣エリアで活動している医師の協力を得て、月に1回1時間実施しました。ケアマネジャーが医療関係者とスムーズに連携ができように心がけ支援を行いました。	毎月第3金曜日 14:00～15:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「出前福祉講座」	生活にちょっと役立つ事柄をテーマに、地域の自治会・町内会館に出向いて開催しました。「介護保険」「認知症サポーター養成講座」などの講座を開催し、地域住民が身近に福祉に触れ、理解を深める機会として実施しました。また、講座の企画や寸劇出演などで協力を仰ぎ、地域住民とネットワーク構築を図りました。	6月30日 7月7日 9月10日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	認知症の理解を増やすことで認知症高齢者の住みやすい知育作りを目指し、地域や学校、行政などに出向き、認知症サポーター養成講座を実施しました。	10月5日、6日 H29年2月6日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ひわまりホルダー出張登録会	登録することで病院や警察から地域ケアプラザに連絡が入り、身元がた緊急連絡先、かかりつけ医などの情報が確認出来る、H28年度から始まったひわまりホルダーの登録にケアプラザに来所が難しい方のために各自治会単位で出張登録会を行いました。	10月5日 11月11日 11月26日 12月15日 H29年1月13日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域で最期を迎えるためのシンポジウム	地域住民、活動者、民生委員など対象に在宅医療を実施している医療機関3機関の先生方の講演、質疑応答や往診風景のVTRの解説など、住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるために、「地域で最期を迎えるためのシンポジウム」を開催しました。	10月27日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「運動器を鍛える」講演会	ケアプラザ協力医の医療相談会の普及啓発とロコモティブシンドローム、介護予防の普及啓発を目的として行いました。	10月21日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
成年後見きほんのき	成年後見制度について基本的な知識をわかりやすく説明し、正しい利用につなげていけることを目的とし、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく老後を生きるために何が必要かを考える機会とし、行いました。	H29年3月2日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
支えあいマップ 情報交換会	それぞれの地区で地域ケア会議として支えあいマップを実施しているが、それぞれの地区での事業の発展に違いもある為、除法交換をすることで更なる発展へと進ませる目的で実施しました。	H29年3月15日
助け合い情報交換会	東永谷地域ケアプラザエリアの助け合い活動（福祉ネットワーク・地区社協、自治会での助け合い活動）団体の活動の今後更なる発展を目的とした情報交換会を行いました。	12月13日
まちぐるみ健康 教室渡戸	渡戸地区のまちぐるみ健康教室で団体のフォローと地域の人たちの交流を目的とし、PTによる介護予防講座を行いました。	10月19日
最戸ふれあい教室	最戸ふれあい教室で団体のフォローと地域の人たちの交流を目的とし、PTやSTによる介護予防講座を行いました。	10月16日
桜台福祉クラブ	桜台福祉クラブの食事会で団体のフォローと地域の人たちの交流を目的とし、OTやSTによる介護予防講座を行いました。	9月16日 10月21日 11月18日